

飼料米（粳米）活用による若狭牛づくり(平成23～25年度)

県産飼料米で 安全安心な若狭牛



現状

○トウモロコシ等の穀物飼料の価格高騰



○低コストな玄米(粳殻を取り除いた米)を与えても若狭牛を生産できることを明らかにした(畜産試験場:H21～H22研究実施)



○玄米よりもさらに低コストな粳米を食べさせて、若狭牛を安く生産できないか？

研究内容

飼料米（粳米）を若狭牛に食べさせて、成育状況や肉質への影響を調べる

〈検討項目〉

- 1 成育状況への影響
 - ・嗜好性（好き嫌い）
 - ・発育性（成長速度）
 - ・枝肉成績（肉の量や質）
 - ・採食や反すうの行動等の分析（病気になりやすい行動がないか）
- 2 肉質への影響
 - ・旨味成分（オレイン酸等）
 - ・食味の向上効果（やわらかさ等人の好み）



研究目標

- 玄米から粳米への切替により飼料コスト約10%減
- 安定した肉質の確保

期待される効果

- エサ代が安くなり肉牛農家の経営安定
- 県産飼料米の利用で安全安心な若狭牛の提供



噛んだ回数
分かる機械を
付ける